

高速道路上の歩行者の安全を守るためのキャンペーン

掲載日	2009年9月2日
国名	フランス
分類番号	交通安全
出典	APRR
タイトル	Priorité à la sécurité des piétons sur autoroute

高速道路上で発生する事故の13%は歩行者に関連するものだ。そこでパリ・ライン・ローヌ高速道路会社(APRR)では、高速道路上にも歩行者がいる可能性についてドライバーの注意を喚起し、運転マナーを改めてもらう目的で、9月4日よりAPRRおよびローヌ・アルプ高速道路会社(AREA)の高速道路全体、つまり全長2,200kmを超える高速道路上で大々的なキャンペーンを実施する。

高速道路上の歩行者＝現実にある危険

2008年に全国規模で実施された安全ベスト着用キャンペーンと、さらに各車両に安全ベストの搭載が義務付けられたことは、高速道路利用者が高速道路上で歩行者になった場合に生じるさまざまな危険に対する意識の向上につながった。

だが、利用者たちは、自分たちが歩行者になった場合の危険性については理解を深めた一方で、運転者としては歩行者に対しそれほどの注意を払っていないように見受けられる。

歩行者が引き起こすさまざまな危険について、高速道路利用者の注意を喚起する

原則的に高速道路に歩行者はいないことになっているが、故障車両のドライバー、パーキングエリアやサービスエリア内を歩き来する人々、そして当然のことながら本線や料金所で作業しているスタッフなど、実際にはかなりの頻度で歩行者に遭遇するものである。

高速道路上の歩行者が原因となる危険について、一般の人々や高速道路で働くスタッフにより高い関心を持ってもらうため、APRRグループでは、小冊子のほか、料金所レーンおよびパーキングエリアやサービスエリアに掲示するポスター、ラジオのスポット広告などを通じて広報キャンペーンを展開する。

高速道路上の歩行は危険でいっぱい・・・事故で高速道路に降り立つ場合の注意事項

トラブルやパンク、または軽度の事故が発生した場合には、安全地帯や非常駐車帯に停車し、発炎筒で周囲に知らせること。ドライバーおよび同乗者は右側から車を降りてガードレールの後ろに避難し(非常駐車帯を歩き回らない)、安全ベストを身につけ、直近の非常電話(2kmごとに設置)まで歩き、救援を呼ぶこと。